

福井県家畜保健衛生所

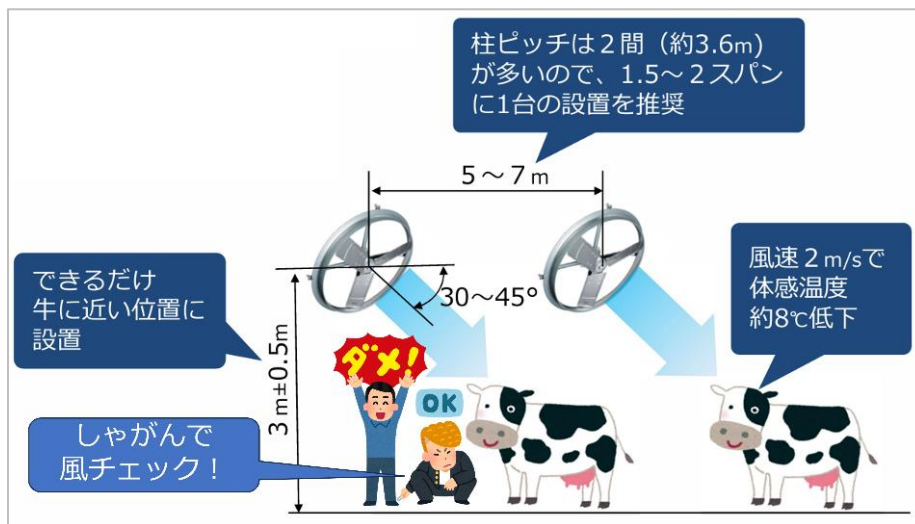
〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1
Tel 0776-54-5104 Fax 54-5966
email katikuhoh@pref.fukui.lg.jp



[家畜保健衛生所](#) | [福井県ホームページ](#)

暑熱対策 送風機の効率的な使い方

5月の畜産研修会にて、三菱電機グループメルコエアテクノロジー株式会社の山本久義先生にご講義いただきました。講義内容から送風機の設置についてポイントを紹介いたします。



「垂直方向への吹き下ろし」「水平吹き」「斜め送風」のうち、「斜め送風」で最も広い範囲に・かつ確実に牛に風が当たるようになります。風速 2m/s で体感温度は 8℃下がりますが、昨今の猛暑ではそれ以上の風速が必要かもしれません。設置前には夏が一番暑い時期に、牛舎へ吹き込む風向きを確認して、風を打ち消さない向きでの設置計画を立てましょう。

送風機を設置したら必ず牛床で風チェックを行いましょう。立ったまま腕を上げて風当たりを確認することも多いと思いますが、牛は人間よりも背が低く、しかも床に寝ています。しゃがんだ状態で風が当たるか確認しましょう。

また昨今のエネルギー費高騰により、効率よく稼働する工夫が必要となっています。仮に 5 台の送風機があるとして、効率よく節電するにはどうしたらよいと思いますか？

正解は、「100%のパワーの 4 台を回す」ではなく、「80%のパワーの 5 台を回す」です！賢く夏を乗り切りましょう！

$600\text{m}^3/\text{min} \times 100\% \times 4\text{台} = 2400\text{m}^3/\text{min}$ \neq $600\text{m}^3/\text{min} \times 80\% \times 5\text{台} = 2400\text{m}^3/\text{min}$

$240\text{w} \times 4\text{台} = 960\text{w}$ \neq $240\text{w} \times 0.8^3 \times 5\text{台} = 614\text{w}$

風量と同じなのに、電力は64%に削減

台数に余裕をもたせ風量調整することで電力削減ができます。

近年のアジア地域での口蹄疫、アフリカ豚熱の発生状況

口蹄疫

日本では2010年に宮崎県で発生して以来、2011年に清浄国として認定されていますが、2019年～2026年4月時点のアジア地域における発生は中国、韓国など近隣国を含む17か国で報告があり、2026年に限ってもカンボジア、モンゴル、中国、韓国での発生が報告されています。

アフリカ豚熱

2018年に中国で発生が報告されて以来感染が拡大し、2025年10月時点では、中国、台湾、韓国などの近隣国を含むアジア全域（21か国）での発生が報告されています。

どちらの伝染病も、農林水産省の水際対策等により、日本は清浄国になっていますが、もはや対岸の火事とは言えず、何時でも火の粉が飛んでくる危険な状態で、ウイルスはすぐそこまで来ています。

飼養農家のみなさまには、今後とも以下の項目について侵入防止対策に務めてください。

- ・農場を囲う柵の設置や敷地内の草刈りなど、野生動物の侵入防止と隠れる場所を作らない。
- ・畜舎周囲に定期的に石灰を散布し、農場に入る車両に対し洗浄・消毒し、ウイルスの侵入を防止する。
- ・関係者以外の農場の立入を禁止し、立入る者や物品に対しては、消毒し、ウイルスの侵入を防止する。
- ・農場内で作業する際は、消毒済の専用の衣服や長靴を使用し、衛生管理を徹底する。



■ : アフリカ豚熱・口蹄疫が発生している国・地域
■ : アフリカ豚熱のみ発生している国・地域
■ : 口蹄疫のみ発生している国・地域
□ : いずれも発生していない国・地域

2025年11月1日時点
出典：WOAH、各国のウェブサイト等
注1：本資料における「発生」はWOAHに報告されたもの
注2：初発年はWOAHに発生が報告された年
注3：口蹄疫発生国・地域は2022年以降で、括弧内は発生数

アフリカ豚熱の初発元年

国・地域名	初発元年
中国	2018年
香港、モンゴル、北朝鮮、韓国、ベトナム	2019年
ラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー	
インドネシア、東ティモール	2020年
インド	
マレーシア、タイ、ブータン	2021年
ネパール	2022年
シンガポール、バングラデシュ	2023年
スリランカ	2024年
台湾	2025年

口蹄疫発生国・地域

国・地域名	発生年
中国(1)、インド(103)、インドネシア(不明)	2022年
カンボジア(24)、スリランカ(67)、タイ(108)	
ネパール(66)、パキスタン(不明)、ブータン(3)	
ベトナム(17)、マレーシア(28)、モンゴル(5)	
中国(4)、インド(49)、インドネシア(不明)	
カンボジア(16)、スリランカ(1)、タイ(15)	2023年
ネパール(34)、パキスタン(不明)	
ベトナム(25)、マレーシア(8)、韓国(11)	2024年
中国(3)、インドネシア(不明)、タイ(2)	
ネパール(36)、パキスタン(不明)	
ベトナム(44)、マレーシア(15)	

注：検査体制や、まん延により報告が十分でない場合やワクチンにより発生が見えにくく汚染状況と発生数が一致していない場合がある。

図. アジア地域におけるアフリカ豚熱、口蹄疫の発生状況 出典元：農林水産省 HP

重要 定期報告の提出

家畜伝染病予防法に基づき、家畜所有者は毎年2月1日時点の家畜の飼養頭羽数および飼養衛生管理状況等を県知事に報告する義務があります。飼養頭羽数が1頭羽から定期報告書の提出が必要です。

令和8年度分の提出期限（3月31日）を過ぎていますので未提出の方はすみやかにご提出ください（郵送・FAX・メール等・eMAFF等）。様式は当所のホームページからダウンロードできます。紙で必要な場合は再送しますのでご連絡ください。

お知らせ

【ET体制の変更について】

これまで県内の受精卵移植（ET）は家保（坂井地域以外）と畜産試験場（坂井地域）で対応していましたが、今年4月から県内全域を家保が対応することとなりました。それに伴い、必ずしも希望日に対応できないことや、午後からの対応になることもありますので、ご了承ください。

今後は、なるべく早い段階で依頼の連絡をしてください。遅くともET希望日の2開庁日前までに連絡いただくようお願いいたします（祝日、連休をはさむ場合は除く）。

例：月曜日ET希望の場合、前週の木曜日までに連絡

日	月	火	水	木	金	土
				2開庁日 ET 依頼	1開庁日	
	ET 希望日					

【電子申請システム（eMAFF等）が新システムへ移行されます】

令和6年10月から、一部の生産者の方にご利用いただいていた農林水産省の電子申請システム（eMAFFまたは飼養衛生ポータル）が見直され、令和8年10月からは新しいシステム（飼養衛生管理等支援システム）へ移行されることとなりました。

現在システムを利用されている生産者の方

ログイン方法などに変更は無く、操作画面や動作が現行のシステムより使いやすくなる見込みです。使用方法につきましては、新システムの詳細が公開された後、個別に対応させていただく予定です。

現在システムを利用されていない生産者の方

用紙やメールでご報告いただいたものは、当所が個人情報保護法に則り、システムへの申請を代行させていただきます。ご自身でシステムへの申請を希望される場合は、gBizID（プライム）の登録が必要となりますので、別途お問い合わせください。

職員紹介

人事異動で家保に新しく加わった職員2名を紹介します。

生産指導課 笹木主事

5月から家畜保健衛生所に採用となりました。繁殖管理とET業務が担当となりましたので、宜しく願い致します。

病性鑑定課 バトラー田中主事

このたび、4月の異動で奥越高原牧場から家畜保健衛生所病性鑑定課に参りました。

まだ不慣れな点も多くございますが、少しでも皆さまのお役に立てるよう、一つ一つの業務に丁寧に取り組んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



牛のヨーネ病検査の方法～新生子牛に耳標の装着をお願いします

前号でお知らせしたとおり、牛のヨーネ病の検査では抗体検査を実施していましたが、「家畜伝染病予防法施行規則」の改正により、新しい遺伝子検査が追加されました。

24 か月齢未満の感染牛では抗体が十分に上昇していないため、抗体検査では摘発できない場合があります。一方で、遺伝子検査では糞便中のヨーネ菌の遺伝子を検出することにより、抗体が上昇する前の感染牛を摘発することができます。

本県においても6月中に「県外導入牛の着地検査」および「奥越高原牧場の買取り子牛に関する検査」などは、抗体検査から遺伝子検査に変更し、「奥越高原牧場の買取り子牛に関する検査」は、検査の対象を母牛から子牛に変更します。

ヨーネ病の遺伝子検査は、子牛・育成牛といった若い牛の糞便を採材します。ヨーネ病検査手数料（200円/頭）の変更はありません。

日程が合えば繁殖管理・ET時に検体を採材しますが、採材のみで農家に伺う場合がありますのでご理解ください。

☆耳標の装着について

各農家で採材をスムーズに行い、検査の対象牛を取り違えないためにも、牛に出生と同時に耳標（個体識別番号）を装着してください。



ヨーネ病検査の変更点

	変更前	変更後
着地検査	抗体検査 (血液)	遺伝子検査 (糞便)
奥牧買取り子牛に関する検査	抗体検査 (母牛の血液)	遺伝子検査 (子牛の糞便)

県内における主な家畜伝染性疾病の発生状況

畜種	病名	発生戸数	発生頭羽数※
乳用牛	牛ロタウイルス病	2	6
	牛コロナウイルス病	1	1
豚	豚カストリジウム・パ-フリダグ-ン感染症 + 豚増殖性腸炎	1	1
鶏	鶏大腸菌症	1	2
山羊	消化管内線虫症	1	1
	肝蛭症	1	1

(令和8年1月1日～令和8年5月31日)

※病性鑑定を実施した頭羽数